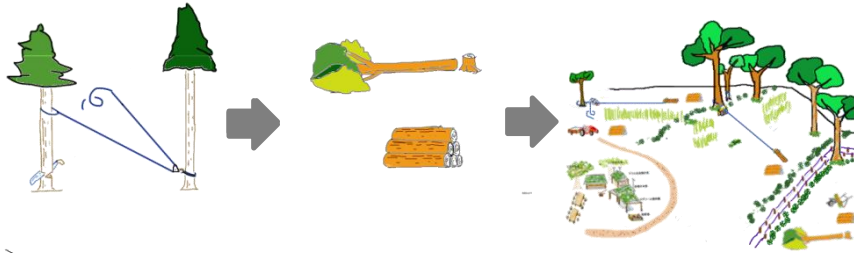


本窯炭焼き・2020/11実績を基に

① 伐倒→→葉枯らし→→林内から搬出



※クヌギの林では伐倒後、萌芽更新していく
萌芽更新は補植より成長が効率的と言われている

※クヌギは最良の炭材と言われている

＜伐倒＞
クヌギの林では萌芽更新を目的として定期的な伐倒を行い、森の恵みとしてその材を炭焼きに使っている

＜葉枯らし＞
伐倒した材の含水率を効率的に下げするため、葉をつけたまま放置後、玉切を行う

＜林内から搬出＞
玉切した材は炭小屋まで搬出する。丸太の運搬作業は昔から作業負荷が高いため、なるべく機械化する



伐倒

7区:2020/8/1
クヌギの林:2020/1/11～(活動休止のため搬出不可)



葉枯らし



林内から搬出
2020/9/30～



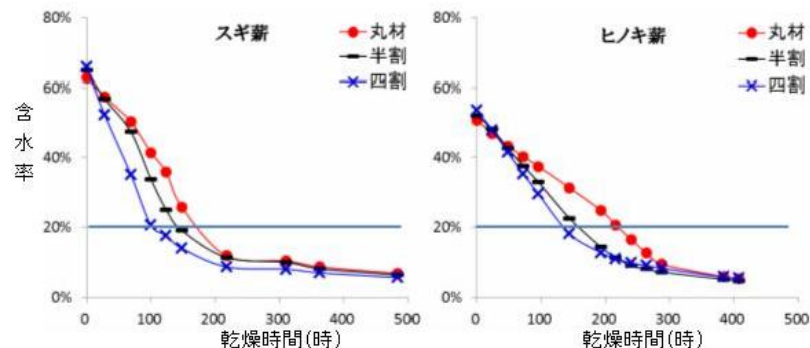
ワイヤーウインチ設置方法

②

炭材;薪割り→→乾燥

	緩い積み方、通気性良い	緩い積み方、通気性悪い	隙間なし、通気性悪い
開始時	42.9	42.9	42.9
2日目	32.8	36.8	40.7
1週目	26.6	29.8	36.7
2週目	23.7	26.5	32.8
4週目	18.5	21.8	28.7
2か月目	16.4	18.4	24.7
3か月目	15.0	16.8	21.7
6か月目	16.8	18.1	20.6

「薪を焚く(晶文社)」より薪の乾燥時の含水率変化

玉切材のまま保管
2020/10/3～油圧薪割機により、木口の大きさはこぶし大まで薪割り
2020/10/21～

岐阜県森林研究所「針葉樹薪の乾燥過程調査」より

＜薪割り＞

炭焼き本窯への装入時に炭材含水率が適正であること、そのために薪割り後は乾燥が早いので、そのタイミングを考慮する。

＜乾燥＞

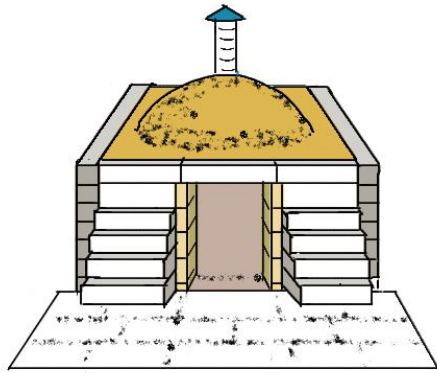
原木の含水率は伐倒時期にもよって、40-60%と言われている。薪の場合はできるだけ乾燥するため、2シーズン以上は乾燥するが、炭焼き用は乾燥しすぎても良くない。30%前後が良いといわれている。

薪割り後、風通しの良いところで乾燥
2020/10/21～

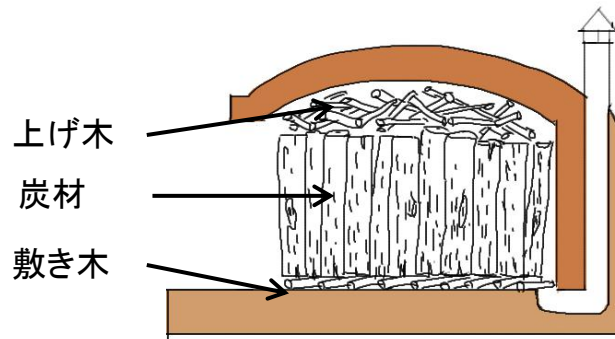
③

炭材準備→→本窯へ炭材装入(立て込み)

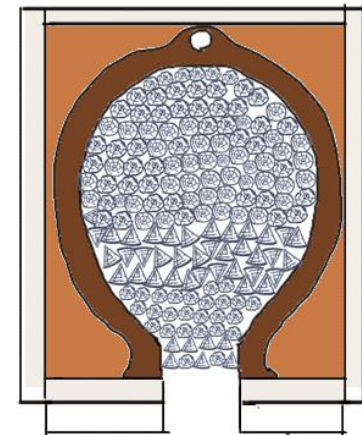
本窯外観図



本窯へ炭材装入後、断面図



本窯を上から見た断面



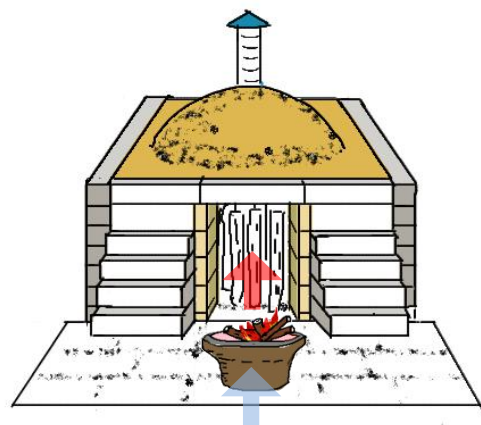
炭材準備;上げ木、敷き木
2020/10/21~

<上げ木準備>

生木の枝木(今回はトウネズミモチの枝木)を採集してきて、親指大の太さ、20cm長に切り揃える

本窯への炭材装入/立て込み
敷き木→炭材(元口を上にして)→上げ木
2020/11/7

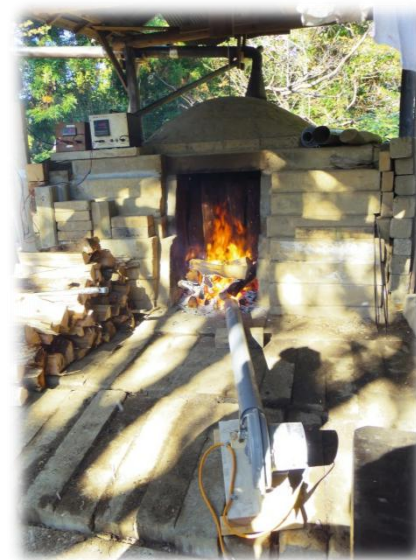
④ 本窯乾燥→→口焚き/着火



本窯乾燥:暖かい風を送って乾燥
2020/11/11



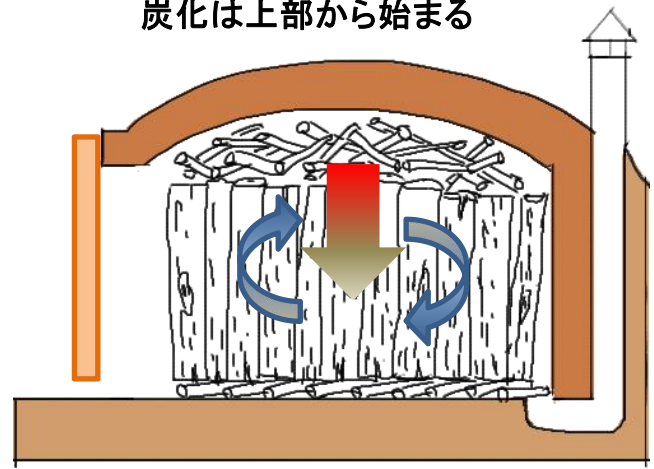
口焚き/着火:窯口にて焚き火をします
2020/11/14 9:00~



⑤ 通風口を残し焚き口を閉じる→→温度監視/炭化促進



炭化は上部から始まる



水蒸気を流動させる

⑥ 精錬作業風景→→窯締め



精錬開始直後16:02



精錬終了前16:06



窯締め(焚き口、煙突を塞ぐ)作業
11月15日16:10

以後、空気を遮断して自然冷却



出来上がりの炭
11月21日

